

植林を通じて環境改善と地域活性

王子ホールディングス(株) コーポレートガバナンス本部

広報室長 飯塚 靖

王子グループの企業理念の1つに「環境と文化への貢献」がある。創業から140年以上にわたり国内製紙産業のリーディングカンパニーとして、様々な事業環境の変化や時代のニーズに機敏かつ的確に対応しながらも、常にこの理念に立ち返り行動している。これは海外に進出しても同じだ。

当社は紙の原料である木材資源を有効利用するため、長年にわたり海外での植林事業を進めてきた。違法伐採や森林破壊への関心の高まりから、植林地の活動では合法性や「環境への配慮」が特に注目されるが、近年では「社会面」や「経済面」への配慮も重視されている。植林地では、地域住民や自治体などへの社会的配慮が欠かせず、地域経済に持続的な貢献をする安定的な森林経営が求められる。本稿では、この「環境」「社会」「経済」に配慮した王子グループの海外における取り組みをご紹介します。

環境への配慮

植林プロジェクトにおける環境への配慮は、土壌保全、水質保全、生物多様性保全など多岐にわたる。当社が植林をする際は、天然林や水源周辺の環境を保全し荒廃地や牧草地などに植林する。その他に、天然林の再生活動も行っている。

ブラジル 王子グループの海外植林地の中で最大規模を誇るブラジルでは、約14万haの植林地とは別に、約10万haの森林を保護林として保全し生態系の維持を図っている。また、急斜面や水源周辺部の森林は伐採せずに残しており、保護林内で浸食、崩壊などがあれば自生樹種を植林して天然林の再生を行っている。

この生物多様性維持の取り組みを象徴するの

が、560haを天然林保護地区として登録している「マセドニア・ファーム」である。ここでは、1990



年から絶滅危惧種ムトゥン(ハウカンチョウの仲間・右上写真)を繁殖・飼育して自然に返す活動をNPOと協力して行っている。また、森林内の動物相、植物相、水資源について、定期的に広範なモニタリング調査を行っており、2011年の調査では07年と比べて鳥類が約2割、哺乳類が約1割増加していた。これらの実績が認められ、これまでに70以上の環境表彰を受賞している。



ブラジルの植林地エリア

オーストラリア 南西部の貴重な自然環境を保護するプロジェクト「 Gondwana Link」のサポーターとして、地域と協力しながら自社植林地エリア内での稀少動植物のモニタリングや自然植生の維持管理を行っている。オーストラリア特有の稀少な動植物が生息する天然林の周辺では、主に牧草地だった土地がユーカリ植林地になったことで、牧草地との緩衝地帯や天然林同士をつなぐ回廊として機能し、生物多様性の向上に寄与していると評価されている。また、07年から西オーストラリア大学と協力して行っている水質調査では、植林地が水質向上に寄与しているという結果が出ている。

社会への配慮

植林地取得に当たっては、現地住民との話し合いの場を設け、地方政府などの行政機関との折衝も繰り返し行う。事業開始後も周辺住民との意見交換を定期的に行い、地元からの理解を得て地域の抱える課題の共有を図る。また、健康診断などの医療機会の提供、教育・文化行事への支援、地域産業支援など、事業を超えた社会貢献活動も行っている。

ラオス 地域社会の生活基盤向上のために、井戸の建設、学校建設の資材提供および道路建設などのインフラ整備や、学校へのノート^{ノートの}の無償提供による教育活動への協力などを実施している。

ニュージーランド 現地環境省および地方の行政機関と共同で「環境保護プロジェクト」を継続的に運営しており、12年には20周年を迎えた。小学校5、6年生を対象に針葉樹林やトゥティラ湖への散策ツアーを開催し、土壌や水質保全において樹木が果たす機能の大切さを伝えている。ツアーは湖畔での植樹で締めくくられ、子どもたちに大変人気がある。自然の大切さを子どもたちに伝える場として活動を続けており、20年間で総勢4500人が参加している（下写真）。



環境教育ツアー



環境教育（植樹）

経済への配慮

苗木の生産や植え付け、除草や施肥などの撫育^{ぶいく}作業、伐採・搬出など植林地経営によって、地元^{ぶいく}に産業を興し雇用が創出される。また、その地域に合った最適樹種育成のための交配研究や試験植林など様々なフィールドでの調査・研究を行っている。

ブラジル 養蜂組合とパートナー契約を結び、ユーカリ植林地の一部を無償貸与する活動を

2000年から行っている。現在では520の養蜂家が蜂蜜を生産しており、植林地周辺の環境に異変があれば連絡するという協力体制が整えられている。また、農業用地約2000haの貸与や500の手芸家に対する原料採取用地の提供も行っている。10年以降は、52の団体に原料を供給するかたちで、ビスケットやパンなどの食料生産・販売を支援している。これらの活動により、合計で年間約200万レアル（約8000万円）に上る地域住民の収入を創出している。

取り組みの評価と今後

前述の「環境」「社会」「経済」への配慮に対する観点^{観点}を基準にしているFSC®認証制度やPEFC認証制度という森林認証制度がある。FSC®認証制度は世界に広く普及しており、適切な森林管理が行われているかどうかについて、10の原則と56の基準による審査が行われる。当社では保有海外植林地29万haの内、約7割の森林においてFSC®認証（例：ラオスLPFL社ライセンスコードFSC-C117723）またはPEFC認証を受けている。これは、環境・社会・経済のバランスのとれた森林経営を行う上で1つの指標となり、今後も認証される森林を増やしていく予定だ。

森林は生産活動に必要な木材の供給だけでなく、多様な生物を守り水源を保持し土壌の流出を防止するといった保全機能の他、レクリエーションの提供や文化の醸成など、私たちの生活と深く関わる多面的な役割を担っている。

森林資源を利用して事業活動を展開する王子グループは、事業継続のために持続可能な森林経営を行う必要があるだけでなく、広大な森林を保有・管理する企業の社会的責任として、地域住民の方々と共に考え、協力し行動することによって今後もより一層豊かな環境づくりに努めたい。■

◆王子ホールディングス(株)のCSRへの取り組み
<http://www.ojiholdings.co.jp/sustainability/report.html>